

飯 館

いいたて



目次 CONTENTS

- 2 今月の話題「進む景観づくり」
- 4 特集1「いいたて 新しい物語」
- 10 いいたて百景「ふかや風の子広場」
- 12 学びの広場「こども園の園章」ほか
- 13 ほけんとふくし「コロナ疲れ」
- 14 ほけんとふくし「長寿番付」ほか
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 そのころはっ／おすすめ図書
- 20 おしらせのページ
- 21 入札結果
- 22 いいたてDIARY／ラオス通信。
- 23 こころのぽけっと／ひとのうごき
- 24 HOPES（ホープス）



今月の表紙

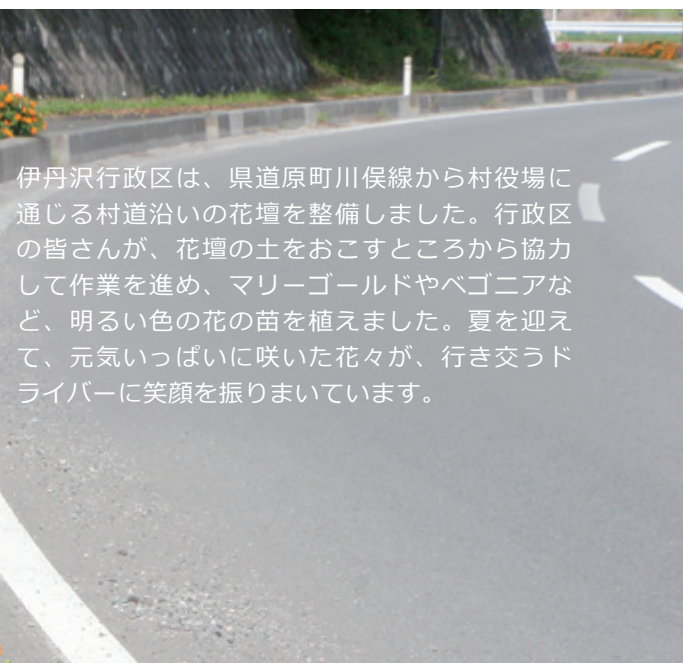
8月9日にオープンした「ふかや風の子広場」。たくさんの親子にご利用をいただいています。お盆明けのこの日は、学童保育に通う村の子ども達も来場。広場ならではの遊びを満喫していました。

地域の景観を地域の手で彩ります

行政区の特性に合わせた「景観づくり」が進んでいます

行政区ごとの取り組みを応援する「地域づくり事業（農村楽園推進事業）」補助金。行政区の戸数に応じた配分で交付され、地域のニーズや個性に合わせた事業をバックアップしてきました。また、全村避難の間中は、交流事業などに活用され、行政区のつながりを支えた他、その後の地域保全活動にも、広く活用されてきました。

今年度は、交付額の20%程度を、それぞれの行政区が「景観づくり」に充てるという項目が、この補助事業に盛り込まれました。すると早速、いくつかの行政区で、地域の特性や帰村状況などに合わせた、あの手の「景観づくり」が始まりました。8月26日現在、7行政区が、さまざまな発想で、景観づくりを進めています。



伊丹沢行政区は、県道原町川俣線から村役場に通じる村道沿いの花壇を整備しました。行政区の皆さんが、花壇の土をおこすところから協力して作業を進め、マリーゴールドやペゴニアなど、明るい色の花の苗を植えました。夏を迎えて、元気いっぱい咲いた花々が、行き交うドライバーに笑顔を振りまっています。



飯樋町ではプランターなどで夏の花を栽培。火の見櫓や屯所の周囲もきれいな花で彩られています。



関根・松塚行政区では、全戸にダリアの苗を配り、栽培講習会も開きました。華やかなダリアを各戸の庭や畑で咲かせて地区全体を彩っていく計画です。

「地域づくり事業」の一環として

「地域づくり事業（農村楽園基金推進事業）」は、平成3年度に、「住民の主体的・自主的な活動による地域づくり」を目的に、スタートしました。

今年度から、この補助金の一部を景観づくりに充てて活動していただくよう、制度の見直しを行いました。補助金は、景観づくりの資材の購入や講習などに活用し、作業自体は地区の皆さんが行うことになっています。今回紹介した花植えの他にも、花木の植樹など、行政区ごとに工夫をこらした景観づくりが行われています。

現在、村内に居住する人は約1,500人（全村避難前の約24%／8月1日現在）となっていますが、避難先から通って景観づくりに携わる方も少なくありません。地域の絆を再確認する時間にもなっているようです。

問 村づくり推進課企画係 ☎ 0244-42-1613

あがべご訪問看護ステーション



右から、看護師として所属する宮谷理恵さん、同じく看護師の小池美恵子さん、代表を務める星野さん、小池さんのご主人の道敬さん。看護師は、星野さんを含め、4人が在籍しています。素敵な看板は、星野さんの奥様の作。

あがべご訪問看護ステーション

住所 飯舘村飯樋字町387
電話 0244-32-1463
携帯 080-1663-2572
FAX 0244-32-1464



●手続きの流れなど、詳細はお問い合わせを。



スタッフのパソコンが並んだ事務室。和室のたたずまいがそのまま生かされていて、ほっとできる雰囲気。

ここで訪問看護を立ち上げたいー
一緒に働いてくれる仲間と共に
3年越しの計画を実現しました

この地で訪問看護を 3年越しで実現

飯舘町に二軒家を購入し、移住して3年。この夏、星野勝弥さん（飯舘町）が、念願だった訪問看護ステーションを開所しました。

訪問看護とは、看護師が自宅を訪問し、療養生活を送る人の看護を行うサービス。健康状態の観察、入浴・洗髪・食事などの介助、薬の管理など、本人や家族の意思を尊重しながら看護にあたり、療養生活

を支えます。「あがべご訪問看護ステーション」では、日常生活の看護、疾病の予防や悪化防止の支援の他、認知症などを含む精神訪問看護で心のケアにも対応します。

8月1日の開所から、すでにいくつかの相談を受けているそうです。「その人その人のニーズに合わせたケアを心がけていきます」。星野さんの挑戦は、まだまだ続きます。

心強い仲間と共に 一歩ずつ進もう

「一緒に働いてくれる方に恵まれました」と星野さん。看護師の宮谷さんは、村の健康福祉課での勤務経験があり、その後も村の人との交流が続いています。小池さんは、多数の診療科で経験を積んだベテラン看護師。「自然豊かな村に来て、深呼吸してまずよ」と笑顔を見せます。星野さんは、「2年3年、さらに5年10年と、村の将来の中で息づいていきたい」と地道に取り組む決意です。「村の人にも、ぜひ一緒に働いてほしいですね。村に来てもらってよかったと思っただけの実績をつくっていききたいです」。

特集 いいたてで始まる 新しい物語

震災から10度目の夏。避難指示解除が行われてから3年が過ぎ、定住を目的に、村に移り住んだ人が100人に達しました（転勤などによる短期の移住を除く）。遠い歴史を振り返れば、冷害や飢饉（ききん）による存続の危機が訪れるたびに、飯舘村は、村外からの移住者を受け入れ、その人達と力を合わせて、村を再興してきました。全村避難からの村の再生は、これまでとは質の異なる挑戦ではありますが、村に戻って頑張る人も、離れて住んで時々帰る人も、やりたいことがあって村に來た人も、たまたま村に住む人も、一人ひとりが、その大切な仲間です。

9月の定例議会に提出される第6次総合振興計画案のキャッチフレーズの一つは、「ちよっと住む 時々住む すっと住む みんないいかも いいたて村」。また、村の再生を牽引してきた復興計画のテーマは、「ネットワーク型のむらづくり」です。そうした動きが、村の中で、すでに、いろいろな形で芽生え始めています。

この夏に生まれた、そんな物語のいくつかを、皆さんにお伝えします。



新しい視点が 気づきを与えてくれる

木こりの仕事を 学んでいます



佐々木淳一さん（宮内）

「チェーンソー作業者の資格を取りました」。お話を聞いた日がチェーンソー作業のデビュー日だったそう。飯舘村森林組合（臼石）の車庫の前で。

木こりに憧れ、求人情報を見て、村への移住を決めたと言う佐々木さん。7月から、飯舘村森林組合で仕事を始めました。移住前は、通信工事の仕事をしていたそう。「家もバス通りに面していて騒がしく、自然豊かな所で暮らしてみたい」と言います。もともと、北は北海道から南は沖縄の離島まで、キャンプをしながらバイクで訪れ、リゾート地で住み込みのアルバイトをするなど、行動的な人生を送ってきました。「隣町まで買い物に行くちよつと不慣れた生活も楽しい」と笑顔。「この仕事をしながら、いずれは自給自足の生活をしてみたい」。現在は、先輩から仕事を教わる毎日。「年配の方もバリバリの現役。山の中を歩くと、追いつけないほど速いんですから。僕もどこまでできるか、自分を試してみたい気持ちです」。

村内企業で仕事を始めた貴子さん。移住前は電車で1時間かかった通勤時間は徒歩5分に。「移住は（健太さんの）決意が固まってから聞きました（笑）」。



小原健太さん・貴子さん（臼石）

新しい毎日を 満喫しています

今年5月に埼玉県さいたま市から移住した小原さん夫婦。移住前の健太さんは、梱包資材を販売する会社の営業職で、宮城県仙台市に単身赴任をしていました。取引先の種苗会社の人と、意見をぶつけ合う間に親しくなり、農業の魅力を尋ねたことが、この移住のきっかけとなったそう。「会社をやめ、ローンを組んで購入したマシンを売って」やって来ましたが、農業用ハウスを建て、来年からは、花農家として仕事を始める予定です。「お会いした村の人は、皆さんもれなくいい方です。すでにいろいろな人と交流しているそうです。「営業職だったのが役に立っているのかな。初めての方とも抵抗がないので」と笑います。「暮らしも思ったより快適。全てのが新しく、期待も大きいです」。貴子さんも、自然豊かな村の雰囲気、とても気に入っているそうです。

さまざまな縁がある

その多様性は「可能性」

草野字カヨウの自宅前にて。平成25年には忠犬八子公オブジェの寄贈にも関わりました。下の写真は「いいたてホーム」で、左から2人目が塚越さん。



塚越栄光さん（草野）

移住100人目の 「までい大使」

植栽管理や庭木の手入れなどを行う株式会社「庭坊」（東京都世田谷区）で代表を務める塚越さん。渋谷公園通商店街での仕事を通じて、東日本大震災の被災地と交流を持つようになりました。「東北の被災地に花を贈る取り組みに携わり、『いいたてホーム』を訪れました。入所者の生命を守るため村内に残ったホーム。そこで働く皆さんが花を喜んでくださった。それがきっかけとなり、渋谷の花壇を舞台に、村の子ども達のメッセージを発信したり、までの石碑がつくられたり」。行ったり来たりの交流が続きました。平成29年からは、飯舘村の「までい大使」に。そして、自然豊かな村で新たな仕事おこしがしたいと、移住を決意しました。「これも縁。村の人が必要としていることに、関わりたい」。塚越さんが、100人目の移住定住者です。



大槻さん制作のパネル。村のよさを発信



それぞれの展示に楽しい工夫が



この学校の卒業生・長谷川友絵さん（左）が母親の圭子さん（宮内）と観覧を楽しんでいました。「思い出深い学校に来る機会として、いいなと思いました」と友絵さん。圭さんは「皆さんの熱意が伝わり感動。うれしくなりました」と輝く笑顔。



ユニークなワークショップも

モノカラ市「山の向こうから」



**モノづくりの魅力
イベントで発信**
8月16日には、二瓶麻美さんが、活動拠点の「やすらぎ工房（旧草野幼稚園）」の前庭で、モノカラ市「山の向こうから」を開催。魅力的なモノづくりを行う人が個性豊かなブースを連ね（デントは二瓶さんの力作）、村内外から約500人が来場しました。11月には、さらに規模を拡大して開催の予定。日時や会場は、次号広報でもお知らせします。



「モノは捕らえよう」展



昭和時代を彩った雑誌の表紙がずらり。デザインにも時代の流れが色濃く表れています。懐かしのアイドルが飾った表紙の前で思わず足が止まります。

**地域おこし協力隊
本領発揮の夏！**
8月15日から30日まで、旧草野小学校の校舎で、「モノは捕らえよう」展が開かれました。市原実さん（千葉県）、澁川定夫さん（千葉県）から村に寄贈された珍しいコレクションの数々を、村内外の皆さんにお披露目しようという企画で、飯館村地域おこし協力隊の3人が奮闘しました。猛暑の中、校舎内の片づけに始まり、村のよさを発信するための取材や展示制作、コレクションのディスプレイ、ワークショップの企画など、3人が力を合わせて、仕事をこなしていきしました。移住定住交流促進アドバイザーの小垣外明子さんも、展示棚の製作などに協力しました。校舎内は、きれいに整えながらも、当時の面影を大事に残しました。「この学校に通った方の思いも大切にしたい」。センスとやさしさにあふれた素敵な展示となりました。



旧草野小学校の校舎と、村に寄贈されたコレクションを生かし、この展示をつくり上げた地域おこし協力隊の3人。松本奈々さん（右）は校舎をアトリエとするクリエイターの拠点づくりを進めています。大槻美友さん（中央）は、今回の展示の主担当で、村内を取材した展示で村の魅力も発信しました。二瓶麻美さん（左）は、2人の活動をサポート。8月16日には、モノカラ市「山の向こうから」（左の記事）を開催しました。

よくぞ、ここまで
暑い夏を、さらに熱く

心ひかれる場所に
人は来る

飯舘 百景

ふかや風の子広場

真っ白な雲が気ままに浮かぶ青い空、ふかふかやわらかな緑の芝、思わず駆け出したくなる景色です。8月9日に、待望のオープンを迎えた「ふかや風の子広場」。道の駅に隣接していて、家族連れにも利用しやすいと好評です。

「ふかや風の子広場」がオープンしました。8月9日のオープン初日からお盆休みにかけては、特に、連日たくさんのお親子、家族連れにご利用いただきました。子ども達の「どきどき」や「わくわく」を大切に、その笑顔を思い浮かべながら準備をしていた広場。いきいきと遊ぶ子ども達が、完成したての広場に、生命を吹き込んでくれました。

広々とした芝生の中に、遊び心いっぱいの遊具の数々。屋内運動施設「ひみつ基地どきどき」内にも、大型遊具や、多彩な木製玩具があります。子ども達の想像力や、考える力、感性を育む遊具・玩具を厳選しました。広場は、県道沿いにある「いいたて村の道の駅までい館」に隣接しています。夕暮れから午後8時までのライトアップも素敵

で、夕涼みにもおすすめです。広場は無休で開放。「ひみつ基地どきどき」は、午前10時から午後4時まで（8月26日現在は新型コロナウイルス対策で人数制限・時間制限あり）。毎週水曜日と年末年始（12月28日から1月4日）は休館です。ぜひ一度訪れて、遊具の楽しさやゆつたりした雰囲気を感じてみてください。



村外の皆さんにも楽しんでいただいています



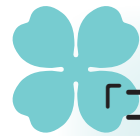
木の温もりいっぱいの「ひみつ基地どきどき」



入って中を見てください。「もしもし洞窟」



「触れる彫刻」の一つ、ブロンズ製のベンチ



「コロナ疲れ」になっていませんか

今、日本中で流行している新型コロナウイルス感染症。この感染症の影響で、友人や遠く離れた家族、親せきに会えない、外出できないなど、例年とは異なる生活を送っている方も多いと思います。

こうした生活が長期化することで、強いストレスを感じたり、不安な気持ちになることは、誰にでもあることです。そんな時に、心を休ませる“ヒント”について、お伝えします。

Q 予防のための行動に個人差があることもストレスに？

A ストレスになることもありますが、ストレスになることもありません。自分と考える違う人との間でも、マスクを着用する、換気の悪い所で長時間話さないなど、基本的な取り組みは行えます。噂話に惑わされず、公的機関の出す情報を元に、感染予防に努めましょう。



堀 有伸 先生

ほりメンタルクリニック（南相馬市鹿島区）の院長先生です。

「コロナ疲れ」との付き合い方を、堀先生に聞きました。

Q&A

Q 「コロナ疲れ」の解消に有効なことは何でしょうか。

A 運動すること。散歩や草むしりでもよいでしょう。あるいは人と話すこと。人とのつながりは心の苦痛を和らげます。また、ゆっくりと家の中で過ごす時間があってもいいと思います。メリハリをつけて休むことができれば、なおよいでしょう。

Q 「コロナ疲れ」でどんな体調の変化がありますか。

A ストレスが長く続くと、意欲の低下や疲れやすさが見られたり、ささいなことで感情的になったりします。いつもは楽しいことが、楽しめなくなることもあります。めまいや軽い動悸がおきることもあります。

までいの里のこども園 園章を紹介します

平成30年度に開園した「までいの里のこども園」の園章のデザインが決まりました。園章は、8月25日、2学期の始業式の中で、園児達にお披露目され、先生が、デザインに込められた意味などをやさしい言葉で伝えました。



園章は、「までいの里」の「里」の字をモチーフにしています。子ども達を、土から芽を出した「若芽」として表現し、大空に向かって大きく成長して欲しいという願いが込められています。また、「若芽」を両手で包み込み、指の重なりで、子ども達に対する村の人の見守りや、時の積み重ねを表しています。

里

特別寄稿「全2回」

飯舘村教育アドバイザー！同教育委員会学校教育指導員・臨床心理士
海野和夫さん

飯舘村の学校教育の現状とこれから 〈その1〉

平成17年から約12年間、広報いたてに「子育て相談室」の欄をいただいていた。16年間関与した飯舘村の学校教育から退くに当たり、「補遺」を書く光榮に預かりました。深く感謝します。

村の学校教育に接し、最初に気づいたのは学力の問題でした。子どもたちの知能偏差値の平均は福島市とほぼ同じなのに、学力の違いが明らかでした。菅野典雄村長が「学力向上アドバイザー」の予算措置をしてくださいました。これに、数学と英語の元校長を委嘱し、各学校の指導力と子どもたちの学力向上に寄与して貰いました。また、村には学習塾がないことから、中学生の受験対策のために「村塾」開設の予算計上も講じてくださいました。福島市の高校予備校「尚志学園」に村（公民館など）を使用し、受験指導をお願いしました。事故後は、尚志学園の校舎を使用。それから、幼稚園に和太鼓一式の整備もありました。

加えて、代々の教育長が各学校に学力を育てる大切さの自覚を促すとともに、教育委員会と各学校が協力し合って、各教科の「学び方の指導資料」の作成、「飯

館型授業スタイル」の創出、「家庭学習の手引き」の配布、授業研究の日常化など、子どもたちの伸び代を精一杯に伸ばす試みを重ねました。

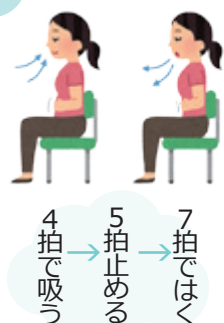
その結果、原発事故の前でも後でも、文部科学省の学力テストで全国レベルを越すことが時々見られるようになりました。また、菅野村長発案の、読解力習得の「教育に新聞（NIE）」の導入、思考力を育てる「はなまる学習会」の学び、表現力を伸ばす「笑育」の取り組み、ごく最近の「自学ノート」の作成などは、子どもたちの個性と学力をよりよく伸ばしています。

そして昨今、村では新たな生存目標と職業像を明確にした大学進学の子どもたちが増えています。村長を目指す、役場職員になり村の発展に貢献する、医師になり村で開業する、食べていける農業を村で実現する、酪農を再生する、教師になり村の学校で教える、世界に出ていく等々、これらはその子どもたちの言葉です。教育が、災害禍を乗り越え新たな生き方を創造する子どもたちを育てている、と確信しています。

ストレスを軽くしてくれる「セルフケア（自分自身のケア）」の一つ、腹式呼吸の方法を紹介します。

1日3回程度
やってみましょう

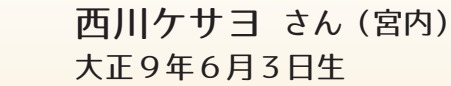
腹式呼吸を取り入れてみませんか



どんな座り方でもよいので、リラックスした左右対称のよい姿勢をとります。心の中で、1・2・3と数えながら、4拍で、丹田（おへその下5cm・奥5cmの場所）がふくらむように、鼻からゆっくり息を吸います。お腹がふくらんだ状態で5拍止め、口からゆっくりと7拍ではきます。この腹式呼吸を何度か繰り返しますが、呼吸や丹田に集中して、他のことを考えないことがポイントです。

眠れない、食欲がない、何をする気力もおきないなどの「うつ」のような症状が続く場合は、健康福祉課にご相談ください。

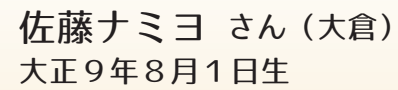
問 健康福祉課健康係（いちばん館） ☎ 0244-42-1637



新型コロナウイルス感染症対策で面会制限になる前は、ご家族の面会も多く、いつも賑やかに声をかけてもらっていました。職員を呼ぶ声がかとてもかわいらしいです。

「いたてホーム」で百歳を迎えられたお二人を
ご紹介します。

お二人の賀寿は、新型コロナウイルス感染症対策
のため、ご本人とホームの職員のみで行いました。



ホームに入所された98歳当時は、新聞折り込みの広告を一枚ずつ折り、鍋敷きを作っていました。ナミヨさんの笑顔は周囲の方を和ませ、癒してくれています。

問 健康福祉課福祉係（いちばん館）☎ 0244-42-1633

男 性		年 齢	女 性	
氏 名 (行 政 区)			氏 名 (行 政 区)	氏 名 (行 政 区)
		104歳	古川 トミ子 (伊丹沢)	
		102歳	大東 春子 (伊丹沢)	菅野 ツルノ (比叡)
		101歳	佐藤 菊美 (伊丹沢)	小泉 チヨ (伊丹沢)
佐藤 宗雄 (小宮)		100歳	高橋 嘉子 (伊丹沢)	市澤 ウメヨ (前田)
			菅野 カツイ (比叡)	
		99歳	桑名幸美 (草野)	愛澤 ハツノ (伊丹沢)
			坂本 チヨ (伊丹沢)	山田 マキヨ (伊丹沢)
			西川 ケサヨ (伊丹沢)	阿部 キノ (伊丹沢)
			佐藤 ナミヨ (伊丹沢)	荒 二三子 (飯樋町)
		98歳	花井 トヨ (伊丹沢)	志賀 ヨシ子 (蔵平)
		田村 マツヨ (比叡)	馬場 保子 (白石)	
今野 義寛 (前田・八和木)		97歳	大澤 フチノ (上飯樋)	高橋 みつ (前田)
大谷 善吉 (小宮)		96歳	佐藤 オイシ (伊丹沢)	北原 清子 (宮内)
星 節 (八木沢・芦原)			庄司 ヒデ (伊丹沢)	菅野 フミ子 (関根・松塚)
今野 勇 (上飯樋)			高橋 アキヨ (伊丹沢)	佐藤 ハルヨ (前田)
			平栗 智恵子 (伊丹沢)	赤石澤 チイ子 (二枚橋・須置)
巻野 秋重 (伊丹沢)		95歳	横田 フミエ (草野)	齊藤 マツヨ (深谷)
	坂本 登 (小宮)		佐藤 チヨノ (宮内)	五百川 ミッツ (蔵平)
	庄司 千代 (小宮)		松林 サクヨ (大久保・外内)	齋藤 スイ子 (前田)
	齊藤 光一 (八木沢・芦原)		佐藤 ミサオ (上飯樋)	佐藤 フミヨ (二枚橋・須置)
	中川 廣男 (宮内)			
	大河内 竹蔵 (前田)			
小山 辰雄 (草野)		94歳	横山 キクヨ (草野)	小林 ハル子 (小宮)
村山 二郎 (深谷)			堀井 リン (草野)	佐藤 ヨシノ (八木沢・芦原)
庄司 孝夫 (関沢)			齋藤 繁 (深谷)	佐藤 コウ (宮内)
高橋 政幸 (八木沢・芦原)			庄司 ヤイ子 (伊丹沢)	鳴原 キン (飯樋町)
細川 一 (上飯樋)			高倉 アイ子 (関沢)	齋藤 トヨイ (大久保・外内)
菅野 良雄 (比叡)			大内 初子 (関沢)	星 ハナヨ (上飯樋)
			伊東 シミイ (関沢)	菅野 フチノ (長尻)
			末永 花江 (小宮)	
杉浦 一美 (伊丹沢)		93歳	伏見 ナツヨ (草野)	菅野 カツイ (小宮)
	菅野 昌基 (宮内)		小山 ましよ (草野)	長谷川 トメノ (宮内)
	北山 安信 (飯樋町)		坂本 ミヨ子 (草野)	熊谷 テル子 (飯樋町)
	高橋 藤七 (前田・八和木)		目黒 晴子 (深谷)	菅野 千代子 (比叡)
	大谷 八郎 (上飯樋)		花井 ハルノ (伊丹沢)	菅野 アサ (長尻)
	菅野 伸治 (蔵平)		山田 美恵子 (伊丹沢)	庄司 セツコ (長尻)
	菅野 功 (関根・松塚)		菅野 ウメノ (伊丹沢)	杉上 キイ (蔵平)
			花井 キクイ (伊丹沢)	杉上 タケ子 (蔵平)
			三瓶 ハツヨ (伊丹沢)	半沢 キクヨ (白石)
			高橋 キヨ子 (小宮)	高野 タツノ (前田)
高橋 利延 (関沢)		92歳	高橋 ヤヨイ (草野)	高野 チヨ子 (前田・八和木)
志賀 正二 (小宮)			庄司 マシ (深谷)	星 志保 (上飯樋)
半澤 文男 (八木沢・芦原)			高倉 カネ子 (関沢)	佐藤 昭子 (上飯樋)
			菅野 サツキ (関沢)	高橋 フヨノ (上飯樋)
			渡邊 きみ子 (小宮)	村上 テルヨ (上飯樋)
			大内 テルイ (佐須)	木幡 トキ子 (比叡)
			菅野 テルヲ (佐須)	
菅野 宗光 (草野)		91歳	齊藤 昭子 (深谷)	北山 ミツ子 (飯樋町)
西川 豊治 (宮内)			新谷 ヨシイ (伊丹沢)	赤石澤 イハ枝 (飯樋町)
久保内 亨 (大久保・外内)			佐藤 ヨシ子 (伊丹沢)	佐藤 ミドリ (前田・八和木)
			長谷川 キミノ (伊丹沢)	高野 すみ子 (前田・八和木)
			山田 シゲ子 (伊丹沢)	高野 タカ子 (前田・八和木)
			木幡 トヨノ (伊丹沢)	村上 エイ子 (上飯樋)
			高橋 キノ (関沢)	伊藤 八重子 (上飯樋)
			武藤 貞子 (関沢)	佐藤 ウメヨ (関根・松塚)
			高橋 保子 (小宮)	高橋 カオル (関根・松塚)
			佐々木 キヨイ (佐須)	小山田 ナカ (前田)
			大久保 仲枝 (宮内)	

● 番付は敬称略で行政区順となっています。

お楽しみ盛りだくさん！ 「いいいてにぎわい夏祭り」



商工会のスタッフが一致協力して夏祭りを盛り上げました。笑顔があふれた大抽選会のひとこま

8月9日、「いいいて村の道の駅までい館」で、飯館村商工会主催の「いいいてにぎわい夏祭り」が開かれました。当日は、時折雨の降るあいにくの空模様で、新型コロナ対策を講じながらの開催となりましたが、来場者はなんと約700人。会場には、お祭り気分が盛り上がる各種屋台も並びました。特設ステージでも、人気お笑いコンビ「母心」などによるお笑いステージ、山木屋太鼓の迫力の演奏、フラダンス、「かき氷早食い大会」などが続き、大勢の来場者が楽しみました。

「道の日」に合わせて 村内関連企業が道路美化活動

「道路ふれあい月間」と、8月10日の「道の日」に合わせて、毎年この時期に、各地で道路の美化活動が行われています。村では、8月7日に、相双建設事務所と地元企業、村の関連部署などが協力して、県道原町川俣線で、美化活動を実施しました。

当日は、約30人が活動に参加。交流センター「ふれ愛館」前で出発式を行い、路上のゴミ拾いなどを行いました。連休を前に、往来が増加する県道沿いを、きれいにさせていただきました。



2班に分かれ、道の駅と二枚橋地区を起点に、手作業でゴミ拾い。写真は二枚橋地区の作業の様子

グラウンド・ゴルフで いきいきスポーツ交流会



表彰式の後の記念撮影のひとこま。交流を楽しむいきいきとした笑顔が並びました

8月23日、「いいいてスポーツ公園」で、村・飯館村老人クラブ連合会・飯館村社会福祉協議会・いいいてスポーツクラブが、第9回「村民グラウンド・ゴルフスポーツ交流会（第17回飯館村老人クラブ連合会グラウンド・ゴルフ大会）」を開催。約80人が参加し、夏日の中、腕を競い合いました。休憩時には、かき氷が振舞われ、参加者が涼を取りながら交流を深めました。今回の優勝者は、男子の部が齋藤政行さん（前田）、女子の部が飯樋アサ子さん（上飯樋）でした。

「座右の銘」の石碑 新たな8基のお披露目式

村では、大切にしている言葉「座右の銘」を募集し、石碑に刻むプロジェクトを行っています。このたび新たに8基の石碑が完成し、8月7日にお披露目式を行いました。「座右の銘」は、村特産のみかげ石に刻まれ、「いいいて村の道の駅までい館」の遊歩道に設置されています。「人生は すてきな 勘違い」「Do Better! 日々精進」など、新たな8基にもそれぞれ印象深い言葉が刻まれました。菅野村長がいさつし、「人生の教訓に出会い、思いを重ねる場所になる」と、新名所に大きな期待を寄せました。



石碑は応募者負担で設置されています。事業に共感応募した設置者に、菅野村長が感謝を伝えました

第6次総合振興計画策定へ 審議会の答申が行われました



大越会長（右）は、策定にかかる留意点や重点事業の早期実現など審議の内容を伝え答申しました

8月25日、「飯館村振興計画審議会」が、答申を行いました。審議会は、「第6次総合振興計画策定委員会」がまとめた計画案について、2度にわたる会議で審議を行いました。計画案は、策定委員会が、テーマ別の4つの部会の検討を元に、熱心な議論を繰り返してまとめたものです。

審議会の大越憲一会長（深谷）は、菅野村長に対し、審議の内容を伝え「異議なし」の答申を行いました。菅野村長は、関係者の尽力に感謝を伝え、答申書を受け取りました。

「ふかや風の子広場」が完成 竣工式を行いました

深谷地区に「ふかや風の子広場」が完成し、8月8日、国や県、地権者代表などを招いて、竣工式を行いました。式では菅野村長が、「国をはじめ、多くの方々の支援、地権者の理解があって、事業を進めることができた。たくさんの親子に楽しんでほしい」と感謝を述べました。また、世界で活躍する彫刻家・重岡建治さんが制作した彫刻「ブロンズと遊ぶ」の除幕も行われ、重岡さんが「作品がこの場所で生きていく。飯館は第二のふるさとです」とあいさつしました。広場は、翌9日から、本格オープンしています。



屋内運動施設「ひみつ基地どきどき」の前で、関係者がテープカットを行い、竣工を祝いました

その
ところはっ
教えてください
そのワケを
#15

前乗地区から佐須峠へ。佐須行政区内の県道31号線沿いを通りかかると、鮮やかな黄色に染まったヒマワリ畑が、次々に現れました。

7月から8月にかけて、ドライバーを楽しませてくれたこのヒマワリ畑。佐須農業復興組合（菅野和彦代表）が種を購入し、皆で協力して種まきを行ったものでした。「県道を通る皆さんに見てもらえたらと、地元が協力して取り組みました」と菅野代表。所によってはイノシシの被害もあったということですが、山の緑とヒマワリとのコントラストは見事で、心に染みる美しさでした。太陽を見上げるヒマワリが口々に、「がんばってやっていますよ」という地元の皆さんのメッセージを伝えているようにも見えました。



写真は8月上旬、佐須峠から望む佐々木剛さん（佐須）の畑。

佐須のヒマワリ畑
佐須農業復興組合

料理番組や雑誌などでも活躍されている料理研究家・上島亜紀（かみしまあき）先生。実は、飯館村でも、明治大学が進めている、村の食材を使ったオリジナルカレーパンのレシピ開発にご協力をいただいています。今回おすすめする上島先生の料理本では、お手軽なものから本格派、さらには健康志向の料理まで、数多くのレシピが紹介されています。ぜひ活用を！



上島亜紀 著

(右) 考えなくていい冷凍作りおき ナツメ社

(中) 無水調理からパンまで何度も作りたくなるストウブレシピ ナツメ社

(左) もっとおいしく作れる！きほんのおかずと毎日の献立 Gakken

問 交流センター「ふれ愛館」 本の貸出時間

☎ 0244-42-0072

平日：午前8時30分から午後5時

交流センター「ふれ愛館」だより

おすすめ図書を紹介します

話題のパレット

身近な話題を
お寄せください
☎0244-42-1613

村カフェ753



モチモチのベーグルが人気の「村カフェ753(なごみ)」。7月24日は初の貸し切りで、NPO法人「コーヒータイム」を迎えました。同法人は、浪江町で、主に精神障がい者の方々のための作業所を運営。震災後は二本松市に拠点を置いています。利用者とスタッフ約30人が来店し、なごみの時を過ごしました。



隣接する市澤農園にてブルーベリー摘みも体験！オーナーの市澤秀耕さん（深谷）が快く協力してくださったそう。

イイタネちゃんポーチ



1個 1,000円で販売し120個を売り上げました。売上金は、交流が続くラオスの集会施設の建設に寄付する予定です。

「いいたて希望の里学園」後期課程の生徒が、「ふるさと学」の学びの一環で、企画・デザインした「イイタネちゃんポーチ」。製品として300個が完成しました。8月9日には、「いいたて村の道の駅までい館」で開催された「いいたてにぎわい夏祭り」の中で、生徒が自ら販売しました。

かわいい
ポーチが完成
しました！



予約制で
営業中です

気まぐれ茶屋ちえこ



「自分に気合を入れて生きていかないとね」と佐々木さん。見習いたいですね。

昨年5月に再開した佐々木千栄子さん（佐須）の農家レストラン。滋味あふれる故郷の味が、広く愛されています。ところが冬季休業が開けたこの春、新型コロナウイルス感染拡大の影響で再び休業に…。再開時期にも悩みましたが、6月からは、予約制に切り替えて、利用希望に応じています。

予約は3人以上が目安。土日祝日も可。できれば3日前までに連絡を。
☎0244-42-1303

入札結果をお知らせします

入札日／5月25日(単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
農業基盤整備促進事業（飯館西部その2） 測量設計業務委託（比曽字比曽地内）	67,320,000円	(株)船橋コンサルタント	令和3年 3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯館西部その2） 測量設計業務委託（飯樋字一町畑地内）	9,350,000円	(株)福建コンサルタント	令和2年 11月下旬
農業基盤整備促進事業（飯館西部その2） 測量設計業務（飯樋字町地内）	9,240,000円	(株)東コンサルタント 相双事業所	令和2年 11月下旬
農業基盤整備促進事業（飯館西部その2） 測量設計業務（小宮字山辺沢地内）	8,140,000円	(有)武藤測量事務所	令和2年 11月下旬
農業基盤整備促進事業（飯館西部その2） 旧橋撤去設計業務	2,090,000円	(有)武藤測量事務所	令和2年 8月下旬
営農再開支援事業除染後農地保全管理業務	4,070,000円	(一財)飯館村振興公社	令和3年 3月下旬

入札日／6月8日(単位：円)

農業水利施設等保全再生事業 ため池放射性物質対策工事	27,280,000円	(有)福相建設	令和3年 3月下旬
-------------------------------	-------------	---------	--------------

入札日／6月19日(単位：円)

議会映像録画配信システム構築業務	1,540,000円	(株)福島県中央計算センター	令和2年 8月下旬
要支援児童・生徒等支援業務	1,683,000円	非営利活動任意団体 Cocoro Care for Children	令和3年 3月下旬
地上デジタル放送再送信事業工事（第一期）	4,004,000円	(株)T T K	令和2年 12月下旬
移動通信用鉄塔施設K D D I用通信設備設計監理 業務（八木沢・芦原地区）	3,410,000円	(株)オオバ 福島支店	令和3年 3月下旬
移動通信用鉄塔施設K D D I用通信設備設計監理 業務（大倉地区）	3,410,000円	(株)オオバ 福島支店	令和3年 3月下旬
ライスセンター新築工事設計意図伝達業務	1,375,000円	(株)和田建築設計事務所	令和3年 3月下旬
深谷地区多目的交流広場屋内運動場備品購入	3,014,000円	(有)マルショウ事務機	令和2年 8月上旬
農業基盤整備促進事業（飯館西部その2） 測量設計業務（前田地区）	19,470,000円	(株)船橋コンサルタント	令和3年 3月下旬
農業基盤整備促進事業（飯館西部その2） 測量設計業務（関沢地区）	89,100,000円	(有)御堂測量設計事務所	令和3年 3月下旬
農業水利施設等保全再生事業（飯館地区） ため池放射性物質対策調査測量設計業務	128,700,000円	福島県土地改良事業団体連合会	令和3年 3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館東部その1) 用排水路施設等保全工事（水路除草等）	8,910,000円	(有)渡建工業	令和2年 12月下旬
飯館村役場公用車購入	5,145,685円	渡辺輪業自動車整備工場	令和2年 8月下旬
飯館村消防団等小型ポンプ付積載車購入 （大倉・佐須・比曽・役場消防隊）	33,640,564円	福島消防資材(株)	令和3年 3月下旬



お知らせ

豪雨災害の被災地へ 義援金を送付しました

皆様のご協力をありがとうございました



貯金箱を持参し役場で募金をしてくださった菅野正男さん（宮内）。「我々もたくさん支援していただいた。少しずつでも恩を返していかないと」。

本各地で集中豪雨が
発生し、特に、熊本県
を中心とした九州地方に大き
な被害をもたらした「令和2
年7月豪雨」。その被災地に、
皆様からお寄せいただいた義
援金を送付しました。義援金
は、村も加盟する「日本で最
も美しい村」連合を通じて、同
連合の仲間でもある熊本県球
磨村などに届けられる予定で
す。村の呼びかけに対し、温か
なお気持ちをお寄せくださっ
た皆様、ご協力をありがとうございました。

〈募金総額〉28万4,614円

7月20日～8月12日、村役場・交流センター
「ふれ愛館」・いいたて村の道の駅までい館・
いちばん館に、募金箱を設置しました。

8月の村の動きと主なできごと

- 2日・白石地区農地中間管理事業説明会（白石集会所）
- 白石地区・佐須地区・大倉地区 基盤整備促進事業等説明会（各集会所）
- 相馬福島道路 開通式（桑折IC～桑折JCT）
- 2・9・10日・プール開放（いいたて希望の里学園）
- 4日・第1回固定資産評価審査委員会（村役場）
- 7日・「道路ふれあい月間」道路美化活動（県道原町川俣線）
- 「座右の銘」石碑 お披露目式（いいたて村の道の駅までい館）
- 1歳6か月児・3歳5か月児健診（いちばん館）
- 8日・「ふかや風の子広場」竣工式（ふかや風の子広場）
- 9日・「ふかや風の子広場」オープン（ふかや風の子広場）
- いいたてにぎわい夏祭り（いいたて村の道の駅までい館）
- 大久保・外内地区農地中間管理事業説明会（大久保・外内集会所）
- 12日・第7回第6次総合振興計画策定委員会（交流センター「ふれ愛館」）
- 15・30日・「モノは捕らえよ」展（旧草野小学校）
- 16日・ものからはじまる交流イベント「山の向こうから」（やすらぎ工房飯館工場前庭）
- 18日・第2回第6次飯館村総合振興計画審議会（村役場）
- 20日・第7回農業委員会定例総会（村役場）
- 一閑張り教室①（交流センター「ふれ愛館」）
- 第2回飯館村文化財保護審議会（交流センター「ふれ愛館」）
- 21日・4か月児・10か月児健診（いちばん館）
- 23日・第9回グラウンド・ゴルフスポーツ交流会（いいたてスポーツ公園）
- 25日・第3回文化祭実行委員会（交流センター「ふれ愛館」）
- 26日・グリーンスローモビリティ出発式（村役場玄関）
- 第7回飯館村議会臨時会（村役場議場）
- 27日・定例教育委員会（福島市）
- 一閑張り教室②（交流センター「ふれ愛館」）
- 29日・goboton3in1プロジェクト DIYイベント（旧草野小学校）
- 移住者懇談会（旧草野小学校）
- 30日・市町村対抗野球・ソフトボール 結団式（交流センター「ふれ愛館」）

あなたが生まれた日

こころの ぽけっと

長い人生をふり返った時、とても残念だったと思うことの一つに両親に「自分の生まれた時のこと」と「名前をつけてくれた理由」を聞かなかったことがあります。ある大学教授は、思春期真っ只中のゼミ生に「あなたが生まれた日」のレポートを課しているそうです。学生は「えー、何よそれ」とか「恥ずかしいじゃん」と言うが有無を言わせず「人生が変わるはず」と言って必ず書かせるそうです。やらないと単位がもらえないので、ゼミ生はやらざるを得ないという。

まず、親に聞く勇氣が必要。そして書いてきたレポートをゼミの中で発表しなければならぬことになる。そうするそうです。「自分がここに居るのは当たり前」「親は何も分かってくれない」と言っていたゼミ生が朗読しながら涙声になる。それを聞いていた周りのゼミ生も泣き始めるといふ。自分がいかに望まれて生まれてきた存在であり、愛されて育てられたかが必ず分かるという。

「安産、難産の話」「ヘソの緒の話」「生まれた日の天候の話」「産むか、産まないか決心した想い」等々、数限りない話が出てくるそう。命の大切さを知り、親に感謝ができ、これから先、きつと優しく、強く生きていけるはずという教授の「大切な教育法」の一つだといふ。何と素晴らしい教育法だろうと、分かった時には、私の親は残念ながら、もうこの世には居なかったのだ、聞くことは出来なかったのです。誠に残念でなりません。

一人でも多くの方が、ご両親がおられるうちに、この教育法によって「生きる力や、人としての強さ、優しさ」を経験されてはいかがだろうと、常々思っています。ことなのですが、いかがだろうか。

令和2年8月12日 飯舘村長 菅野 典雄

旧草野小学校の活用プロジェクトが動き出しています！その名も「Bound for IITATE プロジェクト」。旧草野小学校をクリエイター（アーティストや作家、デザイナーなど）のオフィス・アトリエとして活用します。また、クリエイター向けのシェアハウスや、村の皆さんも利用できるラウンジスペースなどもつくっていく予定です。

Bound for IITATEプロジェクトは、村内外の皆さんと一緒に盛り上げていくプロジェクトです。DIYイベントや卒業生MeetUp企画など、皆さんにもご参加いただける企画を検討中です。詳しくは公式SNSや今後の広報をチェック！

「Bound for IITATEプロジェクト」



Instagram



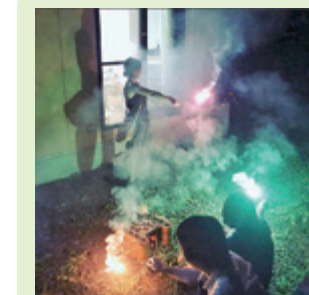
Facebook



今月のライター

飯舘村地域おこし協力隊
松本 奈々さん

なかなか遠出やイベントができない今日この頃ですが、先日村内でプチBBQと花火をしました！今年の夏はあっという間だったなあ。。おいしいものが溢れる秋の村も楽しみです。



佐野志帆さんの

ラオス通信。

vol.1

サバーイなラオスへ

東京オリンピック・パラリンピック2020で村が「復興『ありがとう』ホストタウン」を務めるラオスってどんな国？佐野さんのレポートで素朴な疑問に答えられます。きっとラオスが身近になりますよ！

佐野さんは兵庫県の出身。青年海外協力隊として現地で活動した経験をもとに、佐野さんが見て触れて感じたラオスを教えていただきます。



私が初めてラオスを訪れたのは今から4年前。大学で所属したゼミの先生に連れられて参加したスタディツアーで、現地の小学校を巡回し、子どもたちの身体測定を行ったり、身体測定の意義について大学生に授業をしたりしました。外国の学校を訪問するのは初めてで、私は日本の学校環境とはかけ離れた光景に驚きました。学校の中にお菓子のゴミがたくさん落ちていたり、田舎の学校では電気がつかなくなったり、子どもたちの制服が土で汚れていたり穴が開いていたりしたのです。しかし、どの小学校に行っても子どもたちの笑顔に違いはなく、現地の先生方も私たちを温かく迎えてくれたので、この経験がいつかラオスで働きたいと思うきっかけになりました。

ラオスの好きなところはふたつあります。「ラオス料理」と「サバーイな雰囲気」です。まず、ラオス料理には大量の唐辛子が使われます。日本にいるときから辛いものが大好きな私も、最初は激辛のパパイヤサラダをヒーヒー言いながら食べていましたが、今では大好物になりました。そして、ラオスでは、「リラックス」や「元気」を意味する「サバーイ」という言葉にぴったりの、ゆったりとした時間が流れています。いつかラオスに訪れた際は、サバーイなメコン川のほとりで「サバーイデー（こんにちは）」と言ってみてください。みんな温かい笑顔で返してくれますよ。



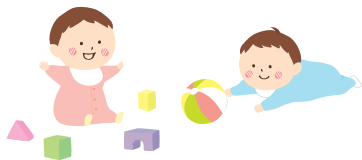
夕陽に輝くメコン川

次回は
ラオスのファッション
を紹介します！

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前 親の氏名 行政区
佐藤 陽真くん 拓・絵里 飯舘町

すくすくと元気に育ってね



ひとのうごき

(令和2年7月31日現在)

人口 今月(前月比)
男 2657人(-11)
女 2668人(-13)
計 5325人(-24)
世帯数 1836戸(+1)

7月1日～31日までの

◆人口動態◆

転入 2人
転出 18人
出生 0人
死亡 9人
(住民基本台帳人口)

(7月21日から8月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

おくやみ

氏名	年齢	行政区
菅野 長男	76	比曽
高橋 康元	68	長泥
佐藤 愛子	90	関根・松塚
巻野 秋重	95	伊丹沢
今野 喜徳	61	宮内

ご冥福をお祈り申し上げます



HOPES

ホープス セカンド

2nd

大好きな佐須で花づくりに挑戦

菅野 次美^{つぐみ}さん（佐須）



南相馬市の出身。村に嫁ぎ、夫の両親、祖父母と同居。一人娘の恵美さんを育てました。自宅横に建てた農業用ハウスで、今年からスターチスの栽培をスタート。8月から出荷も始まりました。

「家の田んぼを手伝うくらいで、農業の経験はほとんどないのですが」と菅野さん。両親と共に、どうしたらこの土地を荒らさずに維持できるだろうと考えた時、近所の花農家や種苗会社にご相談しながら、花をつくってみようと決めました。



水田だった場所を整地し、補助事業を活用して、3棟の農業用ハウスを建てました。栽培時期をずらして、白・ピンク・黄色など、花姿の異なる数種類のスターチスを育てています。

ます。「じいちゃん、ばあちゃんに助けてもらっています」。

菅野さんは、嫁いできた佐須の暮らしが「とても好き」でした。「近所の人や、栗ご飯をつくったから持っていくと声を掛けてくれる。次美ちゃん、次美ちゃんとみんなが呼んでくれる」。やがて娘の恵美さんが「虎捕太鼓」に参加。送り迎えをしていた菅野さんも、地区のお嫁さん達と声を掛け合って、その一員になりました。「太鼓は十数年続けました。みんな一緒に楽しかった」。

スターチスの出荷作業は「まだ教えてもらいながら、何とかやっているとこころ」で、想像以上の忙しさだそうです。「いつか、この仕事で、友達と一緒に働けたらいいですね」。佐須で過ごした温かな記憶が、菅野さんの新たな夢を支えています。

〈編集後記〉

● 昨年、県知事賞を受賞した福島放送主催「CM大賞」に、今年も応募しています。今回は、インターネットでのWEB投票も行っていますので、9月23日まで、ぜひ、村のCM作品にご投票ください！詳しくは「CM大賞2020 福島」で検索ください。目指せ大賞!!（木幡）

● 「山美しく水清らかな」と始まる村民歌。村に移り住んだ新村民の皆さんは、この景色がとてもいいと言います。そして、何と言っても人が温かいと。「土よく肥えて 人情ある」まさにそう。親切なだけではありません。自分の言葉で人生を語る人の何と多いことか。ここで自分の幸せを見つけない、暮らしを紡いでみたいと思わせる土壌があることを更に実感している私です。（星）



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。